令和５年度２学期終業式

２学期が終わりました。
さて、みなさんはここまでにどんな学びがあったでしょうか。立ち止まって考えて下さい。こんな話をすると、「自分は成長しなかった」と下を向く人が居るので、今日は「ネガティブケイパビリティ」という話をします。
みなさんは、すぐに答えが出なかったり、素晴らしい力が発揮できないと、もやもやしませんか？正解がわかったとき、結果がはっきりしたとき、すっきり感じるのが、人間の脳だそうです。わかろうとする脳を持っているからだそうです。
でも、答えがでなかったり、結果が出ないこと。わかったつもりで全然わかっていないことも世の中にたくさんあると言うことに高校生の皆さんは気づいていると思います。
今すぐに解決できなくても、なんとか持ちこたえていく能力を「ネガティブケイパビリティ」といいます。謎を謎として、興味を抱いたまま、宙ぶらりんのどうしようもない状態を耐え抜く力です。多くの研究では、このどうしようもない状態を耐え抜くことが必要です。今、すぐに、成果が出なかったり、悩んだり、考え込んでいるみなさんは、どうか、興味を抱いたまま持ちこたえて下さい。すぐに答えが出なくても良い。すぐに成果が上がらなくても良い。苦しさに耐える力これから、あなたの生き方を支えてくれます。

みなさんは、これまで弘前中央高校の中で、部活動や行事や授業やサクラタイムなどを通してたくさんの壁にぶつかったでしょう。できるはずのことがうまくいかなかったり、友達と意見が合わなかったり、納得がいかないこともたくさんあったと思います。その中でみなさんは、そのとき考えられる最適な答えを見つけて行動してきました。正解かどうかわからなくても、最適解を探して行動する。とても立派です。もしも、立ち止まってしまった人も、下を向くことはありません。立ち止まって、じっくり考え続ける。結論が出ない状態に居続けることも、大事な力なのです。わかったつもりの理解が、ごく低い次元にとどまってしまうことも往々にしてあります。ネガティブケイパビリティ。結論がでない、宙ぶらりんで苦しいの状況になったとき、この言葉を思い出して欲しいと思います。弘前中央高校で、あなたは確かに成長しています。自信を持って、冬休みを迎えましょう。

三年生の皆さん。ゆっくり時間はとれないかもしれませんが、あえて、深呼吸して自分を客観的に見て下さい。あなたはまだまだ成長できる。入試の直前まであがいて下さい。今足りないことを知って、時間と戦いましょう。

一，二年生のみなさん。この冬、何に挑戦しますか？

家族を手伝う、本を読む、単語をおぼえ直す、タイムを縮める、筋肉をつける。何でも良いので一つ挑戦してみましょう。そして友達の挑戦を応援して下さい。

心ない言葉をかけてはいけません。今できることではなく、これからやろうとすることが大切なのです。温かい気持ちでお互いを思いやり、みんなで挑戦し続けて欲しいと思っています。

挑戦とはできないかもしれないことに立ち向かうことです。挑戦すればあなたは必ず成長できる。

ここまで、みなさんはよく頑張りました。三学期も一緒に頑張りましょう。

令和五年十二月二十二日

県立弘前中央高等学校
校長　齋藤　郁子